

「浮気？」

作・月の砂漠

「あなた、この毛はなあに？」

仕事から帰って来たばかりの妻が、そう言った。リビングでくつろいでテレビを見ていた私は、ドキリとして振り返る。

妻は一本の黒い毛を、指でつまんでいた。

「これ、あなたのワイシャツに着いていたんだけど？」

しまった、と私は思った。それは“彼女”を抱きしめた時、付いてしまったものに違いなかった。家に入る際、気を付けて払ったつもりだったが……うかつだった。

「ええと、それは、その」

私は言いよどんだ。ワイシャツは洗濯カゴに放り込んでいたはずだ。妻はわざわざ、それをチェックした。つまり、最初から疑っていたということだ。ダメだ。これはもはや、言い逃れ出来そうにない。

「あなた……。よくも、よくも……」

妻は目を三角に吊り上げ、次の瞬間、私を一喝した。

「よくも、一人で猫カフェに行ったわね！」

怒りを爆発させた妻を前に、私は謝るしかなかった。

「ご、ごめんよ。我慢出来なかったんだ」

そうなのだ。私は、仕事が休みだった今日、一人で近所の猫カフェに行ってしまったのだ。

「猫カフェに行く時は、一緒に行こうって約束したじゃない。抜け駆けは禁止だよって」

妻が、まるでネズミを追い詰める猫のように、私にジリジリとにじり寄ってくる。

「許せ。ほんの出来心だ。クロちゃんが可愛くて可愛くて、どうしても会いたかったんだ」

クロちゃんは、アメリカンショートヘアの男の子だ。あの黒い毛はクロちゃんのものなのだ。

「私だってクロちゃんに会いたいわよ。仕事が忙しくてなかなか会えないのに、それを、あなただけ一人で……許さん！」

妻が猫のように、シャーっとうなり声を上げた。

普段は聡明で優しい妻だが、話が猫のことになると、途端に凶暴化してしまう。

「た、助けてー」

妻は私を爪で引っかこうと、目を光らせて追って来る。

私は狭い室内を逃げ回りながら、一日も早くお金を貯めて、ペットOKの家に引っ越さなくては……と思った。

【了】